

第 208 回山梨大学医学会例会

日時：令和 7 年 2 月 26 日（水）午後 4 時～5 時

会場：管理棟 3 階大会議室

教授就任講演

医療安全というカオスへの挑戦

荒神 裕之

山梨大学大学院総合研究部医学域 医療安全学講座

司会 小泉 修一教授

【要旨】

私はミレニアムの年、2000 年に琉球大学医学部を卒業し、聖路加国際病院で 2 年間の初期臨床研修を開始した。臨床研修制度の開始前で、当時は普通の「超」長時間労働も、現代の医療安全上は許容されないブラック労働であった。その後、整形外科医の 2 年間では、病院立地に由来する「ペイハラ」の大波に遭遇し、この経験が、法学を志す決意につながった。早稲田大学大学院法務研究科の進学は人生の転機であったが、弁護士の夢は実力不足の故に叶わず、都内の市中病院に臨床医として戻るプロセスの中で医療安全に携わることとなった。特に、恩師の和田仁孝先生の導きもあり、紛争対応（Conflict Management: CM）を究めることとなった。CM は、対話を通じた人間関係調整手法であり、両当事者に第三者が支援的に関わるメディエーション（mediation）という対話手法について、病院実務で実践経験を積みながら、研修会の講師として全国を飛び回る生活が始まった。この活動を通じて、台湾など海外の研究者らとの交流、CM 学会の設立と総会長、総合診療科の立ち上げ、（公財）日本医療機能評価機構など様々な経験の場を与えていただき、こうした現場での経験や着想に基づく研究に挑戦するため、2013 年東京医大の公衆衛生学分野博士課程に進学した。井上茂主任教授や小田切優子講師の指導を仰ぎながら、患者サポート体制充実加算に基づく患者相談窓口の研究に取り組み、2018 年に修了することができた。同研究は、幸いにも医療の質・安全学会の若手奨励賞に選出され、患者相談に関する領域は、私が中心的に取り組む分野の 1 つとなっている。

2019 年に本学に赴任し、臨床実務はもとより、全国の医療安全支援センターの支援事業への関与や学会役員、県補助事業のピアサポート普及活動など多くの機会を頂戴している。こうした私の人生の軌跡にも似て、医療安全は雑多なカオスの側面が否めないが、医療者と患者の双方の安全を護るため、臨床実務、教育と研究に専心して参りたい。